

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第3区分
 【発行日】平成16年9月2日(2004.9.2)

【公開番号】特開2001-55406(P2001-55406A)

【公開日】平成13年2月27日(2001.2.27)

【出願番号】特願平11-233857

【国際特許分類第7版】

C 0 8 F 2/00

C 0 8 F 2/38

C 0 8 F 2/44

C 0 8 F 220/14

C 0 8 J 5/02

C 0 8 J 5/18

C 0 8 L 33/12

【F I】

C 0 8 F 2/00 B

C 0 8 F 2/38

C 0 8 F 2/44 C

C 0 8 F 220/14

C 0 8 J 5/02

C 0 8 J 5/18 C E Y

C 0 8 L 33/12

【手続補正書】

【提出日】平成15年8月18日(2003.8.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

粘度平均分子量100万以上の線状メタクリル酸メチル系重合体0.5~3.5重量部、粘度平均分子量5~30万のメタクリル酸メチル系重合体5~25重量部およびメタクリル酸メチル系モノマー71.5~94.5重量部からなるシロップ100重量部に、メタクリル酸メチル系モノマーと共重合可能な多官能性モノマー0.1~0.5重量部および連鎖移動剤0.01~0.30重量部を添加してなるシロップを、セルに注入して重合させるサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【請求項2】

粘度平均分子量100万以上の線状メタクリル酸メチル系重合体が、メタクリル酸メチルのホモポリマーであることを特徴とする請求項1記載のサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【請求項3】

粘度平均分子量5~30万のメタクリル酸メチル系重合体が、メタクリル酸メチルモノマーとアクリル酸エステルとの共重合体であり、アクリル酸エステルの含有量が0.5重量%以上であることを特徴とする請求項1記載のサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【請求項4】

メタクリル酸メチル系モノマー71.5~94.5重量部中にアクリル酸エステルが0.

5 ~ 10 重量部含有されていることを特徴とする請求項 1 記載のサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【請求項 5】

メタクリル酸メチル系モノマーと共重合可能な多官能性モノマーが、ネオペンチルグリコールジアクリレート またはネオペンチルグリコールジメタクリレートであることを特徴とする請求項 1 記載のサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【請求項 6】

連鎖移動剤 0.01 ~ 0.30 重量部中にアルキルメルカプタンを 80 重量%以上含有することを特徴とする請求項 1 記載のサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【請求項 7】

連鎖移動剤 0.01 ~ 0.30 重量部中にアルキルメルカプタンを含有し、メタクリル酸メチル系モノマーと共重合可能な多官能性モノマーと連鎖移動剤中のアルキルメルカプタンのモル比が、1.5 ~ 3.5 であることを特徴とする請求項 1 記載のサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明は、粘度平均分子量 100 万以上の線状メタクリル酸メチル系重合体 0.5 ~ 3.5 重量部、粘度平均分子量 5 ~ 30 万のメタクリル酸メチル系重合体 5 ~ 25 重量部 およびメタクリル酸メチル系モノマー 71.5 ~ 94.5 重量部からなるシロップ 100 重量部に、メタクリル酸メチル系モノマーと共重合可能な多官能性モノマー 0.1 ~ 0.5 重量部および連鎖移動剤 0.01 ~ 0.30 重量部を添加してなるシロップを、セルに注入して重合させるサニタリー用メタクリル樹脂板の製造方法である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

該粘度平均分子量 100 万以上の線状メタクリル酸メチル系重合体をメタクリル酸メチル系モノマーに溶解する方法は、従来公知の方法 でよい。例えば、メタクリル酸メチルモノマーおよび、メタクリル酸メチルモノマーと共重合可能なコモノマーを含有するモノマー混合物にラジカル重合開始剤を添加、加熱してその一部を部分重合することによってメタクリル酸メチルモノマーあるいは、メタクリル酸メチルモノマーと共重合可能なコモノマー溶液として得られる。それをそのまま、あるいは希釈して所定の濃度にすれば良い。また、懸濁重合、乳化重合等により得られる該粘度平均分子量 100 万以上の線状メタクリル酸メチル系重合体を該メタクリル酸メチル系モノマーに溶解しても良い。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

【表 1】

		実施例2	実施例3	実施例4	比較例1	比較例2
予備重合シロップ	重量部	15	25	25	0	65.8
メタクリル酸メチル系 重合体	重量部	15	15	15	25	0
	MA 重量%	5.0	0.8	0.8	4.0	—
	粘度平均 分子量	13万	14万	14万	11万	—
2-エチルヘキシル アクリレート	重量部	4.5	5.5	6.5	4.0	5.5
ネオペンチルグリコー ルジメタクリレート	重量部	0.18	0.18	0.18	0.18	0.35
ラウリルメルカプタン	重量部	0.06	0.06	0.06	0	0.15